

<506> 技術分野で「教科書」を有効に活用するエッセンスは？

限られた授業時数で学習効果を高めるためには、教科書を有効に活用することが不可欠です。各章での有効な使い方を基本とする工夫例のエッセンスを示してみます。このエッセンスを参考にして、教科書の有効な使い方の基本を研究してみれば、いかがでしょうか。

エッセンス：教科書の使い方の基本とする工夫例

<教科書の編や章の扱いは、教育図書の教科書を例にしています。>

教科書の内容構成	授業での使い方の工夫例
ガイダンス	初めて学ぶ技術分野をイメージで捉え、学ぶ意欲が湧くよう工夫する。
1章は、指導要領のA～D編各(1)のア及びイの内容で構成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ○一斉指導一斉学習でも意欲的に学習するように工夫する。実習と結びつけ学習効果を期待するため、2章(Dは3章も)と関連する内容に時間をかけて扱うなど内容に軽重をつける方法もある。 ○「各技術の工夫を調べ考えよう」は、A～D編ごとに学習するのが基本ですが、レポートにまとめたりして、各編まとめて学習することも可能です。 ○「学んだことをまとめよう」は、ワークシートと兼用が効果的です。
2章とD編3章は、主に指導要領A～D編(2)と(3)のア及びイの内容で構成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ○「問題を解決する流れを考えよう」は、ガイダンスや各編に共通した問題解決の手順の全体像を把握するために使う。 ○「プチ問題解決にチャレンジ！」は、授業時数が確保できない場合や題材例の予備学習として扱うとよい。 ○「身近な問題を解決しよう」は、選んだ題材例を例にしながら、実習内容と関連付けて学習するのがポイントです。 ○「2章で学んだことをまとめよう」は、ふり返って身に付いた学びの確認だけでなく、学びを生活にどう生かすかを考えさせる。
3章とD編4章は、指導要領A～C編の各(3)とD編(4)のア及びイの内容で構成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ○技術の+面と一面を見極め、生活での技術の有意義な活用方法について考えさせる。学びの成果を今後の生活でどう活用していくかの実践する態度を養うようにし、その結果として自分なりの技術の在り方・見方を養っていく。 ○各編の「やってみよう」を活用した学習や「まとめ」で生徒自身が学習した内容を確認していくと効果的です。
ファイナル	○各学年あるいは第3学年の最後の時間で、将来のキャリア形成のために使う。授業時数に限りがある場合は、読ませるだけでも効果的です。